

ありく。そのしき、かぞふればいと多し。弥右衛門大切〔四六〕、したぎは〔四六〕、ちう段〔六八〕、あかだし、あるはいふ甚七、勘兵衛など、六七百ばかりぞありけるとか。竈の口のあたり、やゝけちはてたる雪のうちには、ほそくたちむすぶは、あかし竹てふものゝけぶりめぐり出るにや。雪堆イシガネに青金をうすづく音、荷金井ニカキ（水替え桶）の水のとくとくとながれるに、ざるあげ（箆上げ）をし、石からみうた唄ふ女のごゑごゑ、水とともにとよみたり。